

2023 年度 事業計画書

自 2023 年 4 月 1 日
至 2024 年 3 月 31 日

公益財団法人 日本テレビ小鳩文化事業団

2023年度 事業計画書

1. 視聴覚障害者の日常生活の支援及び生活支援の援助者養成

(1)手話放送の制作支援

「NNNニュースサンデー」に出演する手話通訳士の派遣事業。当該番組は、毎週日曜日午前6時15分～6時30分までの全国放送ニュース。

聴覚障害者の方々への情報サービスの一助として、手話通訳を画面右下にワイプで挿入しています。2023年度も東京都聴覚障害者連盟から推薦を受けた4名の手話通訳士がローテーションを組み、年間52回の手話放送に携わる予定です。

(2)点字カレンダーの製作及び無料配布

点字カレンダーは、1976年より製作し全国に無料配布して以来、46年連続している基幹事業。2023年度も写真付き点字カレンダーを製作し、関東を中心に全国の施設や個人に約2万部を無料配布、ならびに全国の日本テレビネットワーク各社の協力を得て各地域に2万部余りの無料配布を実施します。

点字カレンダーには、月ごとに美しい写真を付ける事により晴眼者と視覚障害者とのコミュニケーションを促す願いが込められており、写真についての解説文を点字で表記しカレンダーに同封しています。2024年に配布する点字カレンダーのテーマは「動物たちの四季」を予定しています。

製作と配布は、社会福祉法人日本点字図書館の協力を得て実施しています。

(3)手話スクールの開講と手話の普及事業

「手話スクール」は、手話ができる人を一人でも多く増やし、手話を通じて聴覚障害者とコミュニケーションができる社会を目指し、聴覚障害者の皆様への生活支援に貢献していただくことを目的に、1975 年より現在まで毎年授業料無料で、開講している基幹事業です。

2019 年度からは、2 年間の基礎編の講座に加えて、3 年生（上級編）の講座を開講して現在に至っています。

その目的は、

手話をさらに深め、地域で手話を生かした活動や本格的に手話通訳者を目指す人は、そのための講習会を受けなければなりません、その講習会を受けるには、最低3年間の手話の学習経験が必要となります。

以前は、2年間の授業を終えた後、更に別途1年間の講習会に通う必要があったことから、その人たちのために新たに3年生の講座を開講しました。

授業は、土曜日に神田や、お茶の水の会議室で年間約 25 回開講する予定です。これまでの3年間は、コロナの影響で何回も延期になり、スケジュール変更を余儀なくされましたが、オンラインでの授業を行うなど工夫を凝らし、この3年間なんとか手話スクールを途絶えることなく行ってきました。

2023 年度は、4 年ぶりに 4 月から開講し、約 1 年間の講座を開講します。

2023 年度は、1 年生（47 期生）49 名、2 年生（46 期生）50 名、3 年生（45 期生）25 名が参加する予定です。

1 年生、2 年生 講師 田原 直幸、 助手 村山佳子、堀浩司

3 年生 講師 久住呂 幸一、 助手 安田 育子

（東京手話通訳等派遣センターより派遣）

(4) ラジオから発信する視覚障害者支援の情報番組の放送

視覚障害者に対して、晴眼者がどのように接すれば良いのか、また、日々の生活の中で、視覚障害者は、何を必要としているのか等を考える上で参考となる情報をラジオを通じて発信し、視覚障害者と晴眼者が共に生きていける社会を促進することを目的としています。2014 年 4 月に放送を開始以来、今年度で 10 年目を迎える番組。放送はアール・エフ・ラジオ日本の毎週土曜日午前 8 時 15 分から 30 分までの 15 分間。

メインパーソナリティは、日本テレビの杉上佐智枝アナウンサー。

また、番組連動企画として、視覚障害者のための「音声図書」を日本テレビアナウンサーの協力により昨年 3 月から制作を開始。今年も継続して製作していきます。

日本点字図書館の音声図書ネットサービス図書館「サピエ」や、CD の貸し出しにより、視覚障害者の方のための音声図書を提供していきます。

また、視覚障害者の鉄道ホームの転落事故を食い止める交通安全キャンペーンのスポット CM 広告も出す予定です。

2. 視聴覚障害者を支援する団体 その他の助成

(1) 角膜移植・再生医療への助成

視覚障害者治療に貢献することを目的に、複数の大学病院の角膜移植・再生医療の支援ならびにアイバンクの普及・活動支援と啓もうのためのチャリティ活動イベント「PARTY for VISION」への助成。

助成先：移植・再生医療を支える会

(2) 聴覚障害児の学校への助成

団体生活へのスムーズな順応を図ることを目的とした、耳の不自由な生徒

約 50 人～60 人が参加する夏期郊外学習に対する助成。

助成先：学校法人 日本聾話学校

(3)視覚障害者福祉DVDの製作及び生活支援活動への助成

目の不自由な人を援助する人材の指導・育成のためのDVDの教材の製作に助成。また、同じ目的で行う地方講演会にも助成。

助成先：社会福祉法人 日本視覚障害者職能開発センター

(4)「盲人との接し方」ガイドブックの製作への助成

小冊子「盲人に接する人々のために」1万部の製作と配布に助成。

援助者が、盲人と一緒に歩く方法や危険物の扱い方などを学ぶ内容。

助成先：社会福祉法人 日本視覚障害者職能開発センター

(5) 点字技能検定事業への助成

日本盲人社会福祉施設協議会が行う点字技能検定試験に助成。受験にかかる費用の一部等に使用されます。

この検定試験の目的は、点字関係職種の専門性と認知度を高め、点字の普及と点字の質の向上を図ることにあります。合格者は、厚生労働省が認定する「点字技能師」の資格を取得し、視覚障害者施設・団体、専門学校等の講師として活躍しています。点訳・点字校正・点字指導を行います

助成先：社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会

(6)視覚障害者ケア専門技術認定講習会への助成

全国の各種老人ホームの職員や在宅福祉に携わるヘルパー等を対象に、視覚障害者へのケア技術向上や、介護職員への指導者の養成を目的とした講習会への助成。講習会にかかる費用の一部に使用されます。

助成先：特定非営利活動法人 全国盲老人福祉施設連絡協議会

(7)その他の助成

- ・ 聾者の団体が主催する野球大会に優勝・準優勝・最優秀投手賞楯を贈呈

助成先： 全東京ろう社会人軟式野球連盟

全日本ろう社会人軟式野球連盟

- ・ 視覚障害者が参加するブラインドテニス大会への助成

助成先：日本ブラインドテニス連盟

- ・ チャリティ映画会開催に助成

映画のチケット購入

助成先： 社会福祉法人日本点字図書館、社会福祉法人日本聾話学校

- ・ 本間一夫文化賞に助成

(本間一夫賞とは、2003年に永眠した日本点字図書館創立者の本間一夫氏を記念し、視覚障害者の文化の向上に関する分野で優れた業績をあげた個人・団体を顕彰するために設けた賞)

記念品代

助成先： 社会福祉法人日本点字図書館

- ・ 東京都盲人福祉大会に助成

助成先： 公益社団法人 東京都盲人福祉協会

- ・ 失明原因の解明と失明予防・知識の普及と啓発を図る。

助成先： 公益財団法人 日本失明予防協会

- ・ 東京都社会福祉協議会関係会費

助成先： 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

など視覚、聴覚障害者のための生活支援や、支援団体への助成を予定しています。

（８） 障がい（視聴・聴覚）のある生徒のための進学支援制度による給付金

障がい（視覚、聴覚）のある生徒を対象にして、修学の意欲と能力のあるにもかかわらず、経済的事由により大学や専門学校、短期大学への進学が困難な生徒を対象にして、進学時に必要な経費を支援する制度を 2022 年度からスタート。2023 年度も引き続き行っています。

進学一時金として、一人一律 80 万円を給付します。返済は不要。

申請者の中から、書類選考の上、約 20 名程度に給付します。

進学一時金は、志望校に入学した後の 4 月に毎年給付する予定です。

希望者の募集については、日本盲学校校長会、日本ろう学校校長会のご協力により、全国の盲学校やろう学校の生徒へ広報活動を行うほか、ホームページやパンフレットの配布などにより、周知徹底を図り、希望者を募っています。

申請者の中から、内定者を選考するために、昨年、

「日本テレビ小嶋文化事業団 障がい（視覚・聴覚）のある生徒のための進学支援選考委員会」を設けました。

選考委員は、日本テレビ小嶋文化事業団の理事 5 名で構成し、日本テレビ小嶋文化事業団の常駐スタッフが事務局として、事務運営にあたります。

選考委員には、

片石 修三 理事（社会福祉法人日本視覚障害者職能開発センター 理事長）

黒崎 信幸 理事（社会福祉法人全国手話研修センター 理事長）

塩屋 隆男 理事（公益財団法人アイメイト協会 代表理事）

多田 宏 理事（一般財団法人日本介護福祉経営人材教育協会 代表理事）

石塚 功 理事（日本テレビ放送網株式会社 総務局長）

の 5 人の理事の皆さんにお願いしています。

3. 文化及び芸術に関する各種の公演、講座等

(1) グランプリ・コンサート 2023 (公財)日本室内楽振興財団と共催

次代を担う演奏者の登竜門のコンサートとしてすっかり定着しました。
室内楽の楽しさ、素晴らしさを伝えるコンサート。

3年に一回開催してきた大阪国際室内楽コンクール&フェスタは、コロナのために、3年間休止が続きましたが、2023年4年ぶりに第10回コンクールの開催を行うことになりました。

この第10回コンクールで優勝した演奏者を招聘しての「グランプリコンサート」を、4年ぶりに行います。(有料 入場料3000円予定)

開催日 11月19日(日) 東京 浜離宮朝日ホールにて。

(2) 第17回「想いで^{うた}の詩コンサート2023」企画・主催

世代やジャンルを超えて将来も残していきたい、歌い継いでいきたい日本や海外の名曲を送り届けるコンサート。今年も1960年代から70年代の音楽の黄金時代の名曲を中心に構成。

会場と一体となって、音楽の楽しさ、素晴らしさを全国各地を訪問して伝えていきます。

毎回、地元の少年少女合唱団がプロの歌手と共演することが大きな特徴。

2023年度は、岩手県北上市にて開催します。(入場料2000円を予定)

開催日： 2023年10月7日(土) 予定。

会場： 岩手県北上市文化交流センターさくらホール

また、想いでの詩コンサート2023「特別企画」として、
青梅市にある視覚障害者老人養護ホームの聖明園・曙荘 聖明ホールにてライブコンサートを行います。

開催日；2023 年 5 月 14 日（日）

会場： 視覚障害者老人養護ホーム「聖明園・曙荘」 聖明ホールにて（青梅市）

このコンサートは、コロナのため、今まで 8 回にわたり延期しましたが、昨年 12 月に 2 年越しで 2 週にわたって開催し、大好評を博しました。

聖明園からは、「視覚障害者・老人養護ホームの利用者は、高齢と視覚障害という二重の障がいをもっているため、外出もままならないのが実情です。そのため、施設にいながらにして本格的なライブの演奏に浸れることは、音楽が大好きな利用者にとってこの上ない喜びでした。」とのとても嬉しいコメントをいただいております。2023 年度も、引き続き行っていききたいと思います。

この他には、日本テレビの元麹町本社跡地の野外広場にて、番町・麹町の地域の皆さんを対象に、地域密着のコンサートも予定しております。（入場無料）

（3）スクールコンサート の企画・開催

その 1） 視覚支援学校でのスクールコンサートの開催

昨年、日本テレビ小鳩文化事業団創立 10 周年記念事業の一環として、全国 5 地区の視覚支援学校・盲学校で行ったスクールコンサート。

昨年 1 年間の単発で終わらせることなく、今年も継続して行います。

視覚障害のある生徒の皆さんに、プロのライブの音楽に触れてもらい、音楽の楽しさを伝えるコンサートです。

開催予定日

10 月 18 日 長野県長野盲学校

10 月 27 日 札幌視覚支援学校

11 月 28 日 群馬県立盲学校（前橋市）

12 月 15 日 茨城県立盲学校（水戸市）

その2) 次代を担う中学校の生徒を対象にしたスクールコンサートの開催

次代を担う中学生の生徒をメインの対象に、中学校の子供たちに、一流のプロの演奏家や歌手のライブの音楽に触れる機会を創り、時代や、ジャンルを超えて様々な音楽の名曲を楽しんでもらうコンサート。

また演奏を聴くだけでなく、地元中学校の吹奏楽部や地元少年少女合唱団が、プロの演奏家や歌手と共演する「参加型」のコンサートであることも大きな特徴です。

全国の小・中学校や、地元の教育委員会や市民ホールと協力して実施しています。
来年2月に、千葉県鎌ヶ谷市にて行う予定。

これ以外でも、全国の中学校を対象にして参加を呼び掛けています。

(4) しょうみょう こうえん 聲明 公演 開催

日本音楽の源流といわれ、単旋律音楽に大きな影響を与えた仏教音楽「聲明」と西洋の楽器が共演する、日本テレビ小鳩文化事業団が企画開発した、オリジナルコンサート。「音の饗宴」をテーマとし、荘厳な読経の響きと美しく幻想的な音楽の世界を構築していくコンサートです。毎回、好評をいただいています。

開催日： 2024年2月10日(土) 会場： 東京・晴海 第一生命ホール

(有料 入場料 2500円予定)

4. 文化及び芸術に関する事業、活動への助成

(1) 第75回 高円宮杯全日本中学校英語弁論大会に対する助成

英語力と弁論能力を高め、次代を担う中学生に、国際交流の担い手を育成することを目的とした上記大会への助成。2023年度は第75回目を迎えます。

助成先： 日本学生協会基金（読売新聞協力）